

横浜市立中学校5校に設置されている夜間学級で4月、生徒たち約30人に教科書が無償配布された。夜間学級を支援する市民団体によると、1950年の開級以来、初めてという。法律で定める義務教育課程での教科書無償配布は、なぜこれまでできてこなかったのか。教室をのぞくと、外国からの生徒がほとんどを占める現状や、横浜の夜間学級が抱える課題が見えてきた。

(遠藤 綾乃)

## 横浜の夜間学級

# 追走

市立鶴見中学校(鶴見区)、午後5時半すぎ。校庭にまた運動部の練習風景が残るころ、夜間学級の生徒たちが登校してきた。中国やバンクグラデシユから来日した10〜20代の5人だ。

### ■昼夜の激務も

来日間もなく入級する生徒も多く、昼間の学級と同じ教科書を使っている授業は難しい。「教科書を配ったから、これで授業するの?」と不安そうに聞く生徒もいました。担当する男性教諭は笑って話す。

実際に使うのは、教諭たちの手作りの教材や市販の学習ドリルだ。教諭たちが順番に生徒の進み具合をのぞき込む。「進んでるじゃん」。教諭が話しかけると、男子生徒(18)はうれしそうに笑った。

横浜の夜間学級の先生は、他都市と比べても忙しい。他都市と違い、教諭たちが昼間の学級での授業と夜間学級とを兼任しているからだ。

# 「学べる喜び」共有 教科書配布も個別対応

## 外国からの 生徒多く

夜間学級の設置校では、9教科を教諭9人が教える。担当は1週間に1回交代している。その日は午前8



夜間学級に通う生徒たちに、教科書が配布された  
4月20日、横浜市立鶴見中学校の夜間学級

間学級に4月現在で計27人が在籍。1クラス定員も8人と小所帯だ。

横浜では、高校受験をする生徒も日常会話を習う生徒も、同じ教室で学ぶ。担当教諭は「生徒の数だけクラスがあるようなもの」。それでも「少人数だからこそ、生徒たちは言葉を覚えるのも早い」。来日3年目の男子生徒(17)は「先生たちが教えてくれるから楽しい。学校が好き」と流ちょうに話した。

市民団体「神奈川・横浜の夜間中学を考える会」代表の三階泰子さんは「教科書配布は突破口にすぎない」と指摘、専任制の導入や受け入れ定員の拡大などの改善を訴える。

### ■1クラス8人

外国からの生徒が大半という状況は、他都市も変わらない。東京都では、日本語の習得が必要な生徒を対象に夜間の「日本語学級」を単独事業で設置。5校に計100人弱が在籍する。夜間学級にも8校で計200人超が通う。教諭は専任で、1クラス定員40人。一方の横浜は、5校の夜

市教委担当者は「(義務教育の教員の給与財源が県にあることから)市の判断だけで専任教諭を置くことは難しい」と実情を説明。一方で「現場の先生の『厚意』に甘えてばかりいてはいけないのだが」と苦しい胸の内を明かした。



◆夜間学級(中学校) 学齢を超過した義務教育未修了者のために設置された学級。2009年9月現在、全国に35校設置されている。横浜市内には5校あり、市内在住または在勤者が対象で、4月現在、各校数人ずつ計27人が在籍する。ほとんどの生徒が外国からの生徒で、この状況は他都市もほぼ同様。